

(6) 河川情報センターからの情報提供

那賀川流域協議会および減災対策協議会

【説明内容】

- ①BRIDGE 「IDR4Mの全国展開の加速化プロジェクト」
- ②浸水センサを活用したリアルタイム浸水状況把握
- ③マイタイムラインの普及
- ④-1 気をつけ妖怪「ゲームの要素を取り入れた水防災教育ICTツール」（新作）
- ④-2 気をつけ妖怪「ぬり絵とハザードマップ」による防災教育（数年前から実施）

一般財団法人 河川情報センター

業務執行理事 朝堀 泰明

① BRIDGE:「IDR4Mの全国展開の加速化プロジェクト」

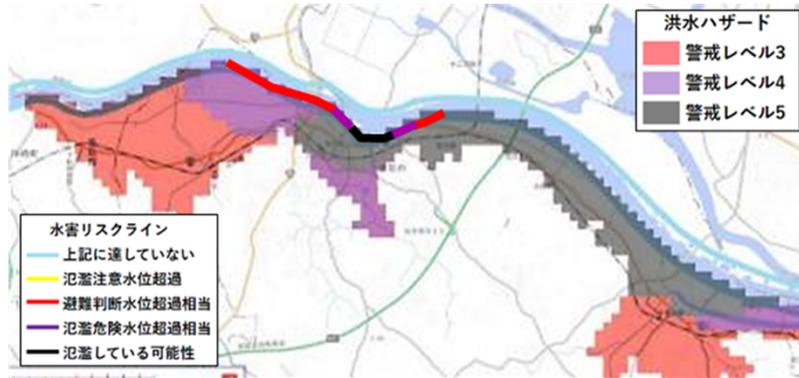
- 国の“川の防災情報”に実装する「洪水ハザード情報機能」を構築した。
- 市町村版IDR4Mプラットフォームを構築し、市町村が活用するための「IDR4Mの構築マニュアル」を整備する。
- 実証実験で運用方法を確認するとともに、大規模氾濫減災協議会等を通じて、実装に関する情報提供を行う。

1. 技術開発

①川の防災情報に実装する機能の構築

洪水ハザード情報

国からのシステム・情報として実装する機能



2. 実証実験の実施

WEBホットライン訓練を実施し、「洪水ハザード情報」の運用方法を確認

訓練用ツール

WEBホットライン訓練では、災害対応手順を確認できる簡便な訓練ツールを活用

訓練でIDR4Mの画面に触れることで、システム構築を後押し



②市町村版IDR4Mプラットフォームの構築

IDR4Mの構築マニュアル

市町村自らがシステムを構築し、災害時に活用



市町村自ら構築

外注・委託により構築



3. IDR4Mの周知等

大規模氾濫減災協議会や総合水防演習等を通じてIDR4M実装の情報提供等を行う。



大規模氾濫減災協議会



総合水防演習

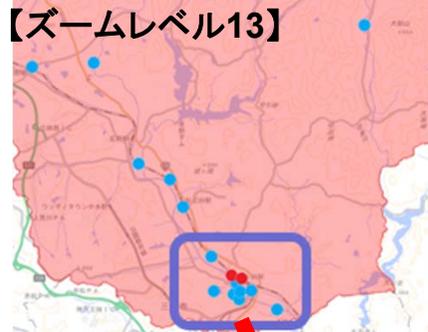
② 浸水センサを活用したリアルタイム浸水状況把握

- 国交省のワンコイン浸水センサ実証実験(令和6年度: 167自治体、46企業団体)で約3,700基の浸水センサを設置。
- 浸水センサの浸水検知情報をリアルタイムで表示するシステムは実証事業参加者のみが閲覧可能だったが、一般向けの浸水センサ表示システムを構築し、令和6年11月14日より試行的に約2,000基公開した。
- また中央大学研究開発機構、大塚ウェルネスベンディング(株)と共に自動販売機を活用した浸水センサの普及を推進しており、これまでに9自治体32基(令和6年度: 2自治体10基)設置した(令和7年2月時点)。
- 令和7年度に向けて、ワンコイン浸水センサ実証実験の新規参加者の募集が行われており、新たな実証実験参加者を加え、令和7年度も実証事業の事務局補助等及び自動販売機を活用した浸水センサの設置に取り組む。

浸水センサ表示システムの一般公開

浸水センサ表示システムを令和6年11月14日より一般公開

□近隣自治体の情報が閲覧できるメリット



- 近隣の浸水状況の把握が可能
- 例えば、道路の通行止めや排水ポンプの操作、水門のゲート操作等の判断に活用する際、他の管理者のセンサの浸水状況も補足情報として確認可能
- 住民が自ら浸水情報を確認することができる。

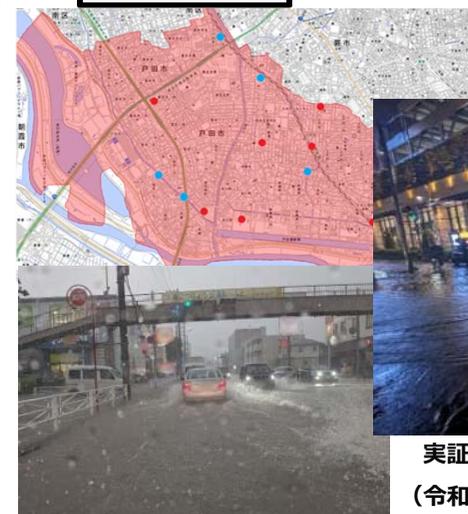


令和6年度における浸水センサ活用事例

ポンプ設置のタイミングや通行可否の判断に浸水センサを活用



実証実験参加自治体: 秋田県秋田市
(令和6年7月9日 浸水状況)



実証実験参加自治体: 埼玉県戸田市
(令和6年7月31日豪雨 浸水状況)



設置例

③ マイ・タイムラインの普及について

- 「流域治水」にマイ・タイムラインって施策が書いてあるけど・・・
- 地域の住民にマイ・タイムライン講習会をやりたいが
どのようにしたら良いの？ 分からない！



区市町村、自治会、
学校、企業等



- 1 FRICS（本社 流域情報事業部）では、講習会の企画から、講師派遣、当日の実施支援まで一通り支援いたします。
- 2 FRICS（本社 流域情報事業部）では、住民に対するファシリテータ育成の観点から、減災協議会・流域協議会の構成市町村の担当課長等に対するマイ・タイムラインの講習会を、公益事業として実施することも出来ます。公益事業としては、四国内では松山市、三豊市で実施しました。
- 3 必要な教材などは、FRICS（本社 流域情報事業部）で準備いたします。

④-1 気をつけ妖怪「ゲームの要素を取り入れた水防災教育ICTツール」 新作

ハザードマップの要素をキャラクター化

ハザードマップに記載される浸水深や家屋倒壊等氾濫想定区域、危険箇所等を、**子供たちにも親しみやすい妖怪キャラクターを作成**

キャラクターゲームの要素を取り入れた水防災教育ツール試行版の開発

- ・ **ゲームを取り入れた遊びながら水防災に関連する知識や技能を学ぶことができるツールを試作**
- ・ **クイズによる水防災知識の習得とマイ・タイムラインの作成が可能**



本ツールの機能

試行実験できる小学校等を探しております。

- 河川・水防災等に関する基礎知識をゲーム要素を取り入れたクイズ形式(現在30問)で学ぶことができる
- マイ・タイムラインをツール内で作成が可能
- ウェブサイトで使用できるため、アプリに比べ運営などの負担が少なく、誰でもネットから使用可能

④-2 気をつけ妖怪「塗り絵とハザードマップ」による防災教育

上板町防災フェスタより（令和元年より参加）



災害の話を聞きながら、気をつけ妖怪の塗り絵で防災を学ぶ子供たち。



河川情報センターの公益活動の一環として実施



令和7年2月1日(土曜日)午後

徳島大学の常三島キャンパスにて、防災教育を受ける学生たち。

その一環として、ハザードマップと気をつけ妖怪で危険個所の理解向上。

高松桜井高校、高知県立中村高等学校、徳島市国府中学校の合計36名